

平成31年度 鳥栖市立基里中学校 学校評価計画

1 学校教育目標 「誇りと生きる力を身につけ、心身ともに豊かな基里っ子の育成」 ～元気にあひさつ・時間を守る・数字に敏感に～	2 本年度の重点目標 (1) 小中一貫教育の充実と発展 (2) 小規模校の利点を生かす(学力向上) (3) 豊かな心を育み健やかな体づくり (4) 学校・保護者・地域との連携した教育の展開
---	---

達成度 A: ほぼ達成できた B: 概ね達成できた C: やや不十分である D: 不十分である

3 目標・評価

①小中一貫教育の充実と発展							
領域	評価項目	評価の観点(具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題(左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	○小中一貫教育の取組	小中一貫教育の推進	読解力育成を中心とした学力向上に向け、小中一貫で次のことに取り組む。 ・乗り入れ授業(1教科以上) ・研究授業の公開(年2回) ・交流活動の実施(各学年年1回) ・朝自習の実施(5教科及びコラム)	・月に一回小中合同研修会を開催し、その中で「小中合同教科部会」や、「交流学年部会」を開き、乗り入れ授業や交流活動の指導計画を練る。 ・年に2回研究授業を行い、小学校はもちろん、校区内外にも公開する。 ・各学年の生徒の実態に応じた朝自習を週に3～4日程度行い、読解力の育成につなぐ。 ・小中一貫便りの発行により、保護者及び地域への啓発をおこなう。	A	小中合同の取組を行うことができたが、保護者アンケートでは取組への認識が過半数を下回っていた。学校の取組に対し理解と協力を求めるためには、さらなる啓発が必要である。	・地域公開授業における乗り入れ授業や交流活動の実施学年を増やす。 ・年2回実施の授業参観のうち、1回を乗り入れ授業や交流活動に切り替える。
学校運営	○教職員の資質向上	指導力の向上	・N R T、全国学力学習状況調査、県学習状況調査、Q Uテストの結果分析により現状を把握し対策を立てることで指導法の改善に役立てる。	・4月の調査結果において観点別の結果を分析し、特に「おおむね達成」に満たない観点については対策を講じる。 ・日々の授業の中で、活用力を向上させる言語活動を仕組み、評価の観点を意識した考査作成を行っていく。考査後の分析と課題に対する補充問題への取組を通して、目標達成に近づける。	B	・小中合同で学習状況調査の結果を分析し、結果にあわせた教科ごとの取り組みをできた。課題としては、現状に満足せず指導力の向上に努めたい。	・調査結果の分析をこまめに行い、学校全体、学年全体での取り組みをしていく。特に個別指導と家庭学習に対する意識付けを重点とする。
教育活動	○教科「日本語」の推進	教科「日本語」の推進	・年間を通し学年単位で計画的に取り組む。 ・外部講師の積極的な招聘を行う。	・地域の文化や人材を生かした体験学習を積極的に行う。 ・文化発表会や参観授業において情報発信を積極的に行う。	A	・計画的に地域の人材を招いての体験学習を行い、生徒の意欲を引き出すことができた。 ・文化発表会で取り組んだことの発表をしたり、学年の廊下に作品を掲示したりすることができた。	・ゲストティーチャーによる体験学習は今後も各学年で計画的に実施したい。 ・学年の発達段階によって、年間計画を検討し、単元に軽重をつける。

②小規模校の利点を生かす(学力向上)							
領域	評価項目	評価の観点(具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題(左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	○学力向上	指導方法の工夫と改善	・英語、教科「日本語」、総合的な学習の時間においてT T授業を行う。 ・N R Tや県の学習状況調査のすべての教科において、昨年度比プラス0.05～0.1ポイント上昇を図る。	・全員が学びたいと思うような課題設定や教材を工夫し、生徒の興味関心を高める授業を行う。 ・生徒が「わからない」と言え、それを解決する授業を目指す。 ・対話的な授業を行い、生徒が互いに考えを出し合う授業を行う。	B	・T T授業を多くの教科で取り入れた。 ・学習状況調査では県平均と同程度であった。	・T T授業の継続 ・深い学びのための教材の研究と対話を重視した授業の展開の工夫

③豊かな心を育み健やかな体づくり							
領域	評価項目	評価の観点(具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題(左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	●心の教育	道徳教育の充実	・すべてのクラスで「ふれあい道徳」を行う。 ・学年や学級の実情に合わせた道徳の授業を継続的に実施する。	・ふれあい道徳において、道徳的価値のある授業を実践し、保護者とともに人間としての生き方や協力することの大切さなどを考えさせる。 ・学年や学級の実情に合わせて、教材の研究を継続的に実施し、情報交換をする。	A	・ふれあい道徳において、どの学級も授業の実践ができた。 ・本年度から教科書ができたが、学年の実情に合わない面もあった。	・年度末の評価に向けて、生徒の道徳的価値の成長をみとめる視点の学校での統一を目指す。 ・担任に負担が偏らない、道徳授業運営方法の確立。
		人権・同和教育の充実と人権意識の向上	・教育活動の全領域を通じて、基本的人権を尊重する態度を育てる。 ・全職員が人権・同和教育の重要性を認識し、1人1回以上研修会に参加する。	・生徒一人一人の理解と個性の伸長を念頭におき、教育の様々な場面で状況に応じて、全校・学年・学級・個別で対応していく。 ・人権啓発につながる人権集会などの行事に生徒が主体的に取り組む活動を生かす。 ・担当を中心に、各研修会の案内と参加の呼びかけを行い、小中学校で連携した研修計画にもとづいて参加・実施に努める。	A	・さまざまな講演会、講話、人権週間、集会、学活や道徳などの取組等において、幅広く人権について考える機会を設けることができた。 ・全職員が一人一研修研修を達成できた。	・生徒が自ら取り組む活動になるよう人権意識の向上を目指していく。 ・小中で共通の取組や交流活動の充実を目指す。
		●志を高める教育	目標をたて、実現に向けて努力する気持ちを高める教育活動の推進	・学校行事や学活、総合的な学習などで目標を立て、実現に向けて努力することで充実感を味わわせる。	・長期的な目標と短期的な目標を立て、具体的な方策を考える。 ・成功体験のみならず、途中の取組も評価する。 ・教師による評価のみならず、自己評価、生徒間の相互評価、外部評価などを取り入れる。	A	・各行事では、実行委員会を中心に生徒が主体的に活動を行うことができた。また、生徒会とも連携し、行事での個人目標を立てさせ、目的意識を持たせて活動できた。
教育活動	●いじめの問題への対応	いじめの未然防止と早期発見、早期対応、早期解決	・すべての教育活動を通して、いじめと命を考える指導を徹底させる。 ・生徒の自己肯定感を高めるために「褒めて育てる」指導に努める。	・「いじめ・いのちを考える日」の集会を毎月、第2火曜日に設け、思いやりのある生徒の育成を図る。 ・月末に「生活アンケート」を行い、生徒の実態を把握し、いじめの早期発見・早期解決につなげる。 ・学校生活全体を通して、生徒の「出番」「役割」の場面を設定し、全校生徒、職員、保護者で「承認」する工夫をする。	A	・「いじめ・いのちを考える日」の集会を毎月計画的に各学年創意工夫を凝らし、実施できた。 ・生活アンケートを毎月実施し、気になる事案には早期対応することができた。	・集会や生活アンケートを継続して実施し、いじめの未然防止や早期発見に努める。 ・学校全体や学級単位で、生徒を「承認」する工夫を行い、自己有用感を高める。
教育活動	●健康・体力づくり	運動習慣の改善や定着化	・新体力テストにおいて、全国平均を上回るように、基礎体力を高める。 ・運動に親しむ態度を育てる。 ・部活動を始める時間を早くし、安全で充実した練習が行えるようにする。	・保健体育の授業において、運動の特性に触れさせながら、体力を高める運動を取り入れる。 ・授業前に柔軟性を高める運動を行う。 ・昼休みにボールの貸し出しをしたり、生徒会主催でスポーツ大会や体育館開放を行ったりして、運動する機会を増やす。	B	・授業の中で、活動量を増やすことができた。また、種目ごとに特性に応じた柔軟を行った。 ・昼休みの体育館開放は行うことができなかった。	・目標に向けて日頃から体力や技能の向上を図ることができるように、授業の中で個々の能力にあった目標設定を行う。
教育活動	●健康・体力づくり	望ましい生活習慣と食習慣の自己管理能力の育成	・適切な生活習慣を身につけさせ、早寝早起きをし、朝食をとる習慣を身につけさせる。 ・バランスの取れた食事をするための指導を行い、食の自己管理能力を育成する。	・適切な生活習慣、バランスの良い食事、行事食、環境とのかかわりなどを生徒への指導とともに、食育だよりを活用し保護者への啓発を行う。 ・授業の中で、自分の食べている一日の食事のバランスを診断し、改善できる知識と自己管理能力を高める工夫をする。	B	・食育便りや委員会活動で、保護者や生徒への啓発はできた。 ・朝食の喫食率は高いが、1日のバランスを考えた食事が取れているかの調査はうまくできなかった。	・家庭科や学活、総合的な学習等で、食への関心を高める。 ・食育便りや委員会活動を今まで以上に有効に活用する。

④学校・保護者・地域との連携した教育の展開							
領域	評価項目	評価の観点(具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題(左記の理由)	具体的な改善策・向上策
運学 学校	○開かれた学校づくり	地域と連携した学校づくりの推進	・各種たよりや通信、HP、メール等を活用し、行事等の情報の発信を行い、保護者、地域の方の学校行事への参加者を30人増を目指す。 ・地域の人材を生かした授業や講演会を設定する。	・行事日程の案内を遅くとも一ヶ月前には掲載し、参加協力をお願いし、本校の教育活動への理解を深める。 ・コミュニティスクールの運営を通し各種団体、地域等の協力を図り、教育活動の活性化を図る。 ・講話や講演、授業において地域の方に講師や外部指導者として参加していただく機会を年間3回以上設定する。	B	・案内やたより等の発行は定期的にできたが、HPへの掲載は、学校サーバーの不具合でうまくできなかった。 ・外部人材の活用は行えた。	・学校サーバーの早期安定化を要請し、担当職員のスキルアップを図る。 ・コミュニティスクールを活用し、外部人材との連携を進める。
運学 学校	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	業務効率化の推進	・時間外勤務の月平均を昨年度より1割削減することを目標にし、業務遂行の効率化を行う。 ・年次休暇取得を昨年度より1日以上増やし、生き生きとした業務遂行に努める。	・OJTの日常化と連携による校務の役割分担を行い、時間外勤務を削減する。 ・毎週月曜日の定時退勤日の実践を行う。 ・年次休暇を取り、リフレッシュを行う。	A	・OJTは日常化し、仕事の能率を高めることも時間外勤務は減少した。	・OJTの推進と仕事の能率化をすすめる。

●は共通評価項目のうち必須項目、○は独自評価項目

4 本年度のまとめ・次年度の取組
 各目標は概ね達成できた。特に職員構成を考えると事務の効率化と人材育成は大きな課題であった。これは今後もさらに進めていかなければならない課題である。また、市内初のコミュニティスクールとして2年が過ぎ、運営が軌道にのってきた。これからは地域との連携を図り互いに協力をしながら、課題を解決していかなければならない。